

## 1. 略歴

1978年3月	東京大学法学部第一類(私法コース)卒業
1986年8月	連合王国ブリストル大学古典学・考古学科留学(1988年7月まで)
1992年2月	Ph.D.学位取得(連合王国ブリストル大学)
1978年4月	東京大学法学部助手
1982年4月	新潟大学教養部講師
1986年4月	新潟大学法学部助教授
1992年4月	新潟大学法学部教授
1993年11月	オクスフォード大学クライスト・チャーチ客員研究員(1995年1月まで)
1995年4月	新潟大学大学院現代社会文化研究科担当(「古典社会文化論」担当)
1999年9月	オクスフォード大学ベイリオル・コレッジ客員研究員(2000年9月まで)
2002年4月	新潟大学法学部法政コミュニケーション学科長(2003(平成15)年3月まで)
2004年4月	新潟大学大学院実務法学研究科教授
2006年4月	大妻女子大学文学部コミュニケーション文化学科教授
2011年4月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

## 2. 主な研究活動

### a 主要業績

#### (1) 著書

『西洋における古典教育と法律家・実務家教育・養成の関係に関する実証的比較研究』(平成13-14年度科学研究費補助金特定領域研究(A)(2)「古典学の再構築」B03班計画研究研究成果報告書2003年3月)全116頁

『これからの教養教育「カタ」の効用』(東信堂2008年3月)全222頁(鈴木佳秀と共編著)

#### (2) 論文

「ラベオー(M. A. Labeo)の『Pithana』について—ローマ法学の諸特徴をギリシア・ヘレニズムの諸学・諸思想との関連で把握するための一素材として—」(東京大学法学部助手論文1982年2月)全192頁

「ホメーロスにおけるクセイノス(ξείνος)の一側面」安藤弘(編)『叙事詩の世界』(新地書房1992年3月)61-124頁

「嘆願におけるホメーロスとギリシア悲劇のあいだ—岡道男『ギリシア悲劇とラテン文学』第四章「嘆願劇—ギリシア悲劇に関する一考察」によせて—」京都大学西洋古典研究会(編)『西洋古典論集』14号(1996年9月)117-129頁

「ホメーロスにおける peitho の一つのインプリケーションと神々の説得」日本西洋古典学会(編)『西洋古典学研究 XLVII』(岩波書店1999年3月)112-121頁

‘Avoidance of Persuasion in Japanese Dispute Resolution’ 新潟大学法学会(編)『法政理論』32巻3・4号(2000年3月)332-352頁

「古代ギリシアにおける「紛争」に対する対応の二つの側面について—peithomai / peitho を手掛かりにして—」法制史学会(編)『法制史研究』50号(2001年3月)1-42頁

「ホメーロスにおける神々の一断面—社会関係と説得—」鈴木佳秀(編)『神話・伝説の成立とその展開の比較研究』(高志書院2003年2月)77-99頁

「パブリックを捨てる—古代ギリシアの場合—」『法政理論』39巻4号(2007年3月)209-224頁

「古代ギリシアにおける貨幣・価値概念について」『法とコンピュータ』(第一法規)25号(2007年7月)136-141頁

「コミュニケーション文化学としてのレトリック」大妻女子大学コミュニケーション文化学会(編)『コミュニケーション文化論集』6号(2008年3月)107-129頁

「古代ギリシアにおける法の解束について」林信夫・新田一郎(編)『法がうまれるとき』(創文社2008年9月)11-36頁

「法の界面活性」『NBL』(商事法務)900号(2009年3月)100-103頁

'General Comments, Symposium: Is Japanese Law a Strange Law?' *Zeitschrift für Japanisches Recht / Journal of Japanese Law* 28 (2009) pp.230-235

「法の透明化プロジェクトへの比較法・法制史からのお返し」『実用法律雑誌・ジュリスト』1394号(2010年2月) 29-36頁

「界面(インターフェース)としての教養」『敬和学園大学人文社会科学研究所年報』8号(2010年4月) 11-18頁

### (3) 翻訳

ジョン・グールド『『イーリアス』における社会の観念』『法政理論』27巻3・4号(1995年3月) 298-322頁

サリー・ハンフリーズ「古代ギリシアにおける法・法廷・司法過程」(高橋秀樹と共訳)『法政理論』31巻2号(1998年10月) 254-289頁

ジョン・グールド「ギリシア宗教の意味をつかむことについて」『思想』(岩波書店) 901号(1999年7月) 5183頁

ジョン・ベイカー「何故イングランド法制史はまだ書き上げられていないのか」『法制史研究』49号(2000年3月) 107-133頁

ヴァルター・ブルケルト「倫理学と動物行動学における罰と復讐—賠償か名誉回復か—古代ギリシアを中心として」鈴木佳秀(編)『神話・伝説の成立とその展開の比較研究』(高志書院 2003年2月) 163-180頁

ヴァルター・ブルケルト「ヨーハン・ヤーコプ・バハオーフェン、カール・モイリとスイスの古典学研究」『西洋古典学研究 LI』(岩波書店 2003年3月) 1-19頁

ゲーアハルト・チュール「法廷に立たされたソクラテス—プラトン『ソクラテスの弁明』は法廷弁論か?」『コミュニケーション文化論集』7号(2009年3月) 133-140頁

### (4) 書評

「半田吉信「古代法における瑕疵担保責任—瑕疵担保法の起源—」」『法制史研究』33号(1984年3月) 276-278頁

「R. G. A. Buxton, *Persuasion in Greek Tragedy: A Study of Peitho* (Cambridge 1982)」『国家學會雑誌』(有斐閣) 98巻5・6号(1985年6月) 145-148頁

「高島純夫「Xeinon 考—前古典期における外人—」」『法制史研究』35号(1986年3月) 403-405頁

「三井哲夫「古典古代に於ける法の抵触について—ホメロスの時代からヘレニズム文化の終焉まで—」」『法制史研究』42号(1993年3月) 337-339頁

「John Gould, *Herodotus* (London 1989)」『西洋古典学研究 XLI』(岩波書店 1993年3月) 145-148頁

「M. I. フィンリー『オデュッセウスの世界』(岩波文庫)」史學會(編)『史學雑誌』104編6号(1995年6月) 105-106頁

「橋場弦『丘の上の民主政』(東京大学出版会)」『法制史研究』48号(1999年3月) 300-304頁

「植松秀雄『埋もれていた術・レトリック』(木鐸社)」『法制史研究』49号(2000年3月) 276-281頁

「山内暁子「古代ギリシアにおける誓い」」『法制史研究』56号(2007年3月) 333-336頁

「D. Cohen & M. Gagarin (eds.), *The Cambridge Companion to Ancient Greek Law* (Cambridge 2005)」『西洋古典学研究 LV』(岩波書店 2007年3月) 159-163頁

「池津哲範「古典期ギリシアの聖域逃避を成立させる観念と“hiketeia(嘆願)”」」『法制史研究』58号(2009年3月) 397-402頁

### (5) 小論・その他

「Where is law, if any, in ancient Greece?」『創文』(創文社) 425号(2000年10月) 10-15頁

「ギリシア法廷弁論と法廷弁論作品—Legal Literature?」『リュシアス弁論集』西洋古典叢書月報(京都大学学術出版会 2001年7月) 1-4頁

「Humanism as an Activity」『創文』461号(2004年1月) 32-37頁

「紛争、スピーチ、そして第三者—古代ギリシアの民主主義を見る—一視点—」『国際シンポジウム いま、民主主義の原点を問う 古代ギリシア民主主義の理想と現実』(青山学院大学 2005年3月) 13-23頁

「イギリスにおける古典学の戦略とライバルたち—オクスフォード大学ベイリオル・コレッジを例として—」京都大学「ヨーロッパにおける人文学知形成の歴史的構図」研究会(編)『国際シンポジウム 近代ヨーロッパにおける人文主義の継承と変容—政治文化・古典研究・大学—』(京都大学大学院文学研究科 2005年6月) 161-173頁

「来た、見た、勝った—三法科大学院ヨーロッパ研修旅行—」(松本英実と共著)『法学教室』(有斐閣) 321号(2007年6月)4-5頁

「Veni, Vidi, Vici.—三法科大学院ヨーロッパ研修旅行(続)—」(松本英実と共著)『法学教室』322号(2007年7月)6-7頁

「宗教的情操を考えるいくつかの視点」『日本学術会議 学術の動向』13巻12号(2008年12月)49-51頁

「宗教的情操を考えるいくつかの視点」日本宗教学会(編)『宗教研究』82巻4輯359号(2009年3月)109-110頁

「古代ギリシアにおける神聖(hieros)概念について」『宗教研究』83巻4輯363号(2010年3月)291-292頁

#### (6) 学会発表

「ホメーロスにおける信頼—説得関係の構造と祈願」(法制史学会東京部会:専修大学 1985年11月)

「Peithomai/PeithoとHomeric Society」(日本西洋古典学会第40回大会:東京立大学 1989年6月)

「ホメーロスにおけるクセイノスについて」(法制史学会東京部会:専修大学 1990年6月)

‘Differences in Argumentative Styles between Westerners and Japanese –Rhetorical Point of View–’ (Contemporary Japan Centre, Essex University, U.K. 1994年10月)

‘Relationships, Speeches and Behaviour of the Gods in Homer’ (Oxford Philological Society, Magdalen College, Oxford, U.K. 1994年11月; University of Bristol, U.K. 1995年1月)

「ホメーロスにおける神々の社会関係、スピーチ、行動様式について」(東京大学法学部基礎法学研究会 1995年12月)

「ホメーロスにおける peitho の一つのインプリケーションと神々の説得」(日本西洋古典学会第49回大会:大阪市立大学 1998年6月)

‘Avoidance of Persuasion in Dispute Resolution in Japan’ (Worldwide Advocacy Conference, Gray’s Inn, London, U.K. 1998年7月)

「古代ギリシアにおける紛争に対する対応の二つの側面について」(法制史学会:国学院大学 1999年4月)

‘An Influence of Common Law upon Japanese Law’ (Oxford Society, Lincoln College, Oxford, U.K. 1999年11月)

‘Some Problems of New Japanese Civil Procedure and Dispute Resolution in Japan’ (Bristol Law Faculty Seminar, Bristol, U.K. 2000年3月)

‘Compliance and Defiance in Ancient Greece’ (Classical Seminar, Bristol, U.K. 2000年3月; Classical Seminar, Warwick, U.K. 2000年5月; Classical Seminar, Balliol College, Oxford, U.K. 2000年6月)

「英国における古典文献学の伝統と革新」(文部省学術審議会 2000年10月)

「古代ギリシアにおける紛争に対する対応の二つの側面について」(京都大学西洋古典学/古代史学会 2000年12月)

「現場のレトリック」(一橋大学言語社会研究科 2001年3月)

「古典における新しい価値の発見 (New Values to be Discovered from Classics)」(科学研究費補助金特定領域研究「古典学の再構築」:学術情報センター 2001年9月)

「古代ギリシアにおける貨幣・価値の両義性について」(北海道大学文学部主催研究会 2001年11月)

「古代ギリシアにおける応諾と反駁」(東京大学法学部基礎法学研究会 2002年1月)

「動物犠牲—屠殺人再訪—」(日本学術振興会短期招聘 Walter Burkert 教授紹介・コメント:北海道大学 2002年6月)

「倫理学と動物行動学における罰と復讐—損害賠償か名誉回復か—古代ギリシアを中心として」(Walter Burkert 教授法制史学会講演紹介・コメント:北海道大学 2002年6月)

「創造の源泉としての古典 (Classics as a Basis of Creativity)」(科学研究費補助金特定領域研究「古典学の再構築」:京都 2002年9月)

「紛争・スピーチ、第三者—古代ギリシアの民主主義を見る—一視点」(青山学院大学主催国際シンポジウム

「いま民主主義を問う」 2004年4月)

第57回公共哲学京都フォーラム「物語論」討論参加(京都 2004年12月) [宮本久雄・金泰昌(編)『原初のことば』(東京大学出版会 2007年2月)に収録]

「教養教育 あえて社会から切断して—誰が、何を、どのようにして—」(日本学術振興会人文社会科学振興プロジェクト研究事業公開シンポジウム「長寿化・少子化社会における知の継承と創造—何を・誰が・どの

ように一」:仙台 2005年9月)

ジョン・ノース教授死生学連続講義「古代ローマ人の死生観とその変容」 第5回特別講義「異教的諸宗教の歴史における選択・機会・変化」コメンテーター(21世紀COE研究拠点形成プログラム「生命の文化・価値をめぐる『死生学』の構築」:東京大学 2005年11月)

平成16-18年度文部科学省法科大学院等専門職大学院教育形成支援プログラム「裁判と法実務に関する国際的体験研修プログラム」(新潟大学、青山学院、九州大学) リーダー、研究会司会・コメント(Cambridge-London-Paris-Strasbourg-München-Zürich 2004-2007年)

‘A Comparative Aspect of the Methodology of the Ancient Roman Jurists: Fritz Schulz on the History of Roman Legal Science Revisited’ (第18回英国法制史学会:Oxford, U.K. 2007年7月)

日本学術振興会人文社会科学振興プロジェクト「教養教育の再構築」国際シンポジウム「Reconstruction of ‘kyoyo’ Education: Shaping the Formulae for the Promotion of Critical Abilities in Art, Science and Technology」(International Conference on Communications between Humanities and Science/Technology: Towards Dialogical Knowledge: Glasgow, U.K.; Oxford Literae Humaniores: Past, Present and Future: Oxford, U.K.; Diffusion of Humanities: Genève, Switzerland 2007年8月)

「リュシラスとギリシア法」(科学研究費補助金基盤研究(B)「ギリシア政治哲学の総括的研究」(代表:加藤信朗) 研究会「プラトンと政治哲学」:東京大学 2008年6月)

「宗教的情操教育について—古代ギリシア宗教から考える—」(日本学術会議哲学委員会哲学・倫理・宗教分科会・日本宗教学会共催シンポジウム「宗教的情操教育」をめぐる諸問題」:筑波大学 2008年9月)

シンポジウム「ここがヘンだよ日本法」総括コメント(科学研究費補助金特定領域研究「日本法の透明化プロジェクト」(代表:河野俊行):東京 2008年12月)

‘Why the History of Japanese Law has not been finished’ (第19回英国法制史学会:Exeter, U.K. 2009年7月)

「日本法の特性とその分析—透明化によって見えてくること」(科学研究費補助金特定領域研究「日本法の透明化プロジェクト」(代表:河野俊行):東京 2009年7月)

‘On Aristotle’s epieikeia’ (国際ギリシア法制史学会 Symposium 2009: Graz, Austria 2009年8月)

「古代ギリシアにおける「神聖(hieros)」概念について」(日本宗教学会:京都大学 2009年9月)

‘Why the History of Japanese Law has not been finished’ (Brown Legal Studies Seminar, Providence, U.S.A. 2010年2月)

### 3. 主な社会活動

#### (1) 他機関での講義等

敬和学園大学非常勤講師 1993, 1996, 1997年度

東京大学法学部非常勤講師 1997年度

東京大学文学部・大学院人文社会系研究科非常勤講師 2009年度

#### (2) 学会及び社会における活動等

2003年11月 日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト「これからの教養教育」研究グループ(教養教育の再構築)リーダー(2008年3月まで)

2004年4月 日本西洋古典学会委員(2010年3月まで)

2006年10月 日本学術会議連携会員(哲学・倫理・宗教分科会)(現在に至る)